



コバトン



令和6年度病虫害発生予察注意報第1号

令和6年4月15日
埼玉県病虫害防除所

県内のナシヒメシンクイのフェロモントラップへの誘殺数が平年を大きく上回る地点が複数見られ、多いところでは3.6～7.2倍となっております。

向こう1か月の気温は高く、降水量はほぼ平年並のため今後活動が活発になると考えられます。(4月11日時点)

本虫は5月頃からうめ、すもも、なし等の新梢を加害し、芯折れの被害を発生させ、さらに7月頃になると次の世代がなしの果実を加害します。

幼虫が新梢や果実の内部に食入すると薬剤の効果が低下するため、食入前の薬剤防除に加え、交信攪乱剤等を利用した体系的な防除に努めましょう。

作物名 核果類(うめ、すもも等)、なし
病虫害名 ナシヒメシンクイ

1 注意報の内容

- (1) 発生地域 県内全地域
- (2) 発生程度 多

2 注意報発表の根拠

- (1) 病虫害防除所等が設置したナシヒメシンクイのフェロモントラップへの雄成虫誘殺数が5か所中4か所で平年を上回り、多い地点では平年の3.6～7.2倍の誘殺数になっている。(図1)
- (2) 4月11日に気象庁が発表した季節予報によれば、関東甲信地方の向こう1か月の気温は高く、降水量はほぼ平年並と予想されており、今後本虫の活動がさらに活発になると予想される。
- (3) 越冬世代の虫数が多いため、世代を重ねるごとに発生量が増加し、今後の被害拡大が懸念される。

3 防除対策等

- (1) うめ、すもも等では芯折れの被害を防ぐために、新梢の伸長時に発生予防に重点を置いて薬剤散布を行う。(表2)
- (2) なし園周辺のうめ、すもも等は発生源になるため同時に防除を行う。
- (3) 成虫の発生初期から交信攪乱剤を使用する。なお、多目的防災網を設置したうえで、広範囲の地域で使用すると効果的である。(表1)
- (4) 食入後では薬剤の効果が低下するため、食入前の防除に重点を置く(表2、表3)。被害にあった新梢や果実は速やかに摘除し適切に処分する。

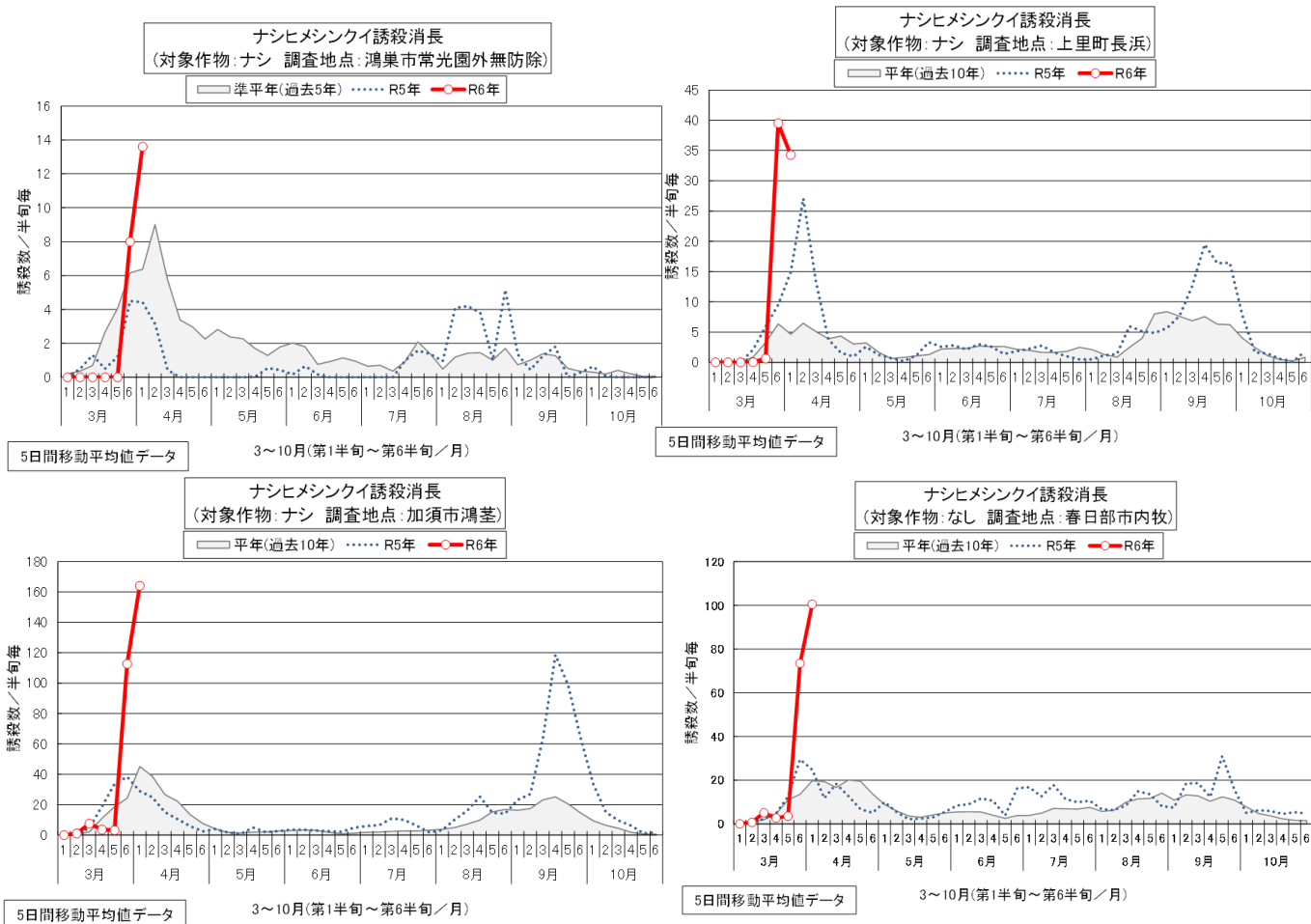


図1 ナシヒメシンクイ誘殺消長（鴻巣、上里、加須、春日部）

※フェロモントラップ等調査データ

<https://www.pref.saitama.lg.jp/b0916/bojo/pheromonetrapp.html>



写真1 ナシヒメシンクイの成虫



写真2 なしの被害果

※ナシヒメシンクイの詳細については病害虫診断のポイントと防除対策を参照

<https://www.pref.saitama.lg.jp/b0916/point-h27kai.html>

表1 果樹類におけるシンクイムシ類の交信攪乱剤例

薬 剤 名	IRAC コード	使用時期	使用回数
コンフューザーN	—	成虫発生初期から終期	—

(使用基準は令和6年4月10日現在)

表2 小粒核果類におけるシンクイムシ類の防除薬剤例

薬 剤 名	IRAC コード	使用時期	使用回数
ダイアジノン水和剤34	1B	収穫21日前 まで	4回以内(すもも) 2回以内(小粒核果類)※
スタークル顆粒水溶剤	4A	収穫前日まで	3回以内
テッパン液剤	28	収穫前日まで	2回以内

※すももを除く小粒核果類

(使用基準は令和6年4月10日現在)

表3 なしにおけるシンクイムシ類の防除薬剤例

薬 剤 名	IRAC コード	使用時期	使用 回数
モスピラン顆粒水溶剤	4A	収穫前日まで	3回以内
ヨーバルフロアブル	28	収穫前日まで	2回以内
アグロスリン水和剤	3A	収穫前日まで	3回以内
デリゲートWDG	5	収穫前日まで	2回以内

(使用基準は令和6年4月10日現在)

<農薬使用上の注意事項>

- 1 農薬は、ラベルの記載内容を必ず守って使用する。
- 2 剤の使用回数、成分毎の総使用回数、使用量及び希釈倍数は使用の都度確認する。特に、蚕や魚に対して影響の強い農薬など、使用上注意を要する薬剤を用いる場合は、周辺への危被害防止対策に万全を期すること。
- 3 農薬を散布するときは、農薬が周辺に飛散しないよう注意する。
- 4 周辺の住民に配慮し、農薬使用の前に周知徹底する。
- 5 農薬の最新情報は、埼玉県農産物安全課ホームページをご覧ください。
<http://www.pref.saitama.lg.jp/a0907/nouann/saishintourokujouhou.html>
- 6 スピードスプレーヤを使用した防除ではドリフトが発生しやすいため、風の無い日に適正な方法で散布する。

4 問合せ先

埼玉県病害虫防除所 電話：048-539-0661